

謹賀新年

令和2年新春のごあいさつ

知恵と愛のある 協働互敬のまち おおたわら

あけましておめでとうございませう。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年の台風19号は、大田原市にも甚大な被害をもたらしました。被災をされた方々に、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧復興を目指し努力してまいります。

また、東日本大震災復興のシンボルであります新庁舎が、昨年10月に無事グラウンドオープンを迎えられたことは、喜びとともに、



市民の皆様への負託にこたえるべく、業務を遂行する決意を心新たにしたいところでございます。

本年も少子高齢化、人口減少の課題に真摯に取り組み、解決を図ってまいりたいと考えております。そのためにも、豊かな自然に恵まれた環境を生かし、次の4つを柱に持続可能な地域社会の構築をしてまいります。

① 誰もが安全・安心なまちづくり

全自治会と連携し自主防災組織を結成、各自治会において、防災士の養成を積極的に働きかけ、自らの身、自らの地域は、自ら守る意識の醸成を図ります。ハザードマップを活用し、居住地域の防災意識と行動規範の認知を高める防災訓練実施を、市民との協働で行います。

② 高齢者・障害者の皆さんに優しいまちづくり

急速に進む高齢化社会と障害者の増加に対し、更なる

医療福祉の充実を図るとともに、生きがいや幸福感の持てる、健康寿命を伸ばしてまいります。

③ 結婚・出産・子育てのしやすい魅力あるまちづくり

地元で生まれ育った子供たちが、地元に残りあるいは帰郷して、結婚子育てがしやすい環境づくりを着実に進めてまいります。働く場と家庭が身近になるよう、保育園、幼稚園、学校を整備、また生涯学習を推進し、良質な人生設計の構築を支援してまいります。

④ 環境を守り、誘致企業・商工・農林水産など地域資源を生かした力強いまちづくり

山紫水明、豊かな自然を守りつつ、地域資源を生かした大田原ブランドの構築を進め、付加価値の高い地域づくりを推進し、市民所得の向上に努めてまいります。

近年ICT(情報通信技術)・IoT(モノのインターネット)・AI(人工知能)・

5G(第5世代移動通信システム)・SDGs(持続可能な開発目標)と聞きなれない言葉が多く出てきますが、今後の地域の発展には欠かすことが出来ない社会要因となっております。これらをよく学び、理解し、それぞれの地域特性に応じた活用をすることにより、地域活力を持続し、魅力ある大田原市の未来に向け、市民の皆様と共に歩んでまいります。

今年も皆様にとって幸多い年でありませうようご祈念し新年の挨拶といたします。

大田原市長
津久井 富雄

